SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

E046 木花開耶姫の足形 (静岡県GEO DATA(28)特集4 : 地学散歩(107))

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2024-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 増島, 淳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/0002000677

E046　木花開耶姫の足形

三島市のシンボル三嶋大社（伊豆一ノ宮）の祭神は大山祇命（おおやまつみのみこと）．娘の木花開耶姫（このはなさくやひめ）は富士山を護る浅間神社（伊豆二ノ宮）の祭神で，三嶋大社の西方400 m に祀られている．

当社は三島溶岩露出部の最南端に位置し，別名「岩留め浅間」とも呼ばれている．

その由来は，境内の溶岩表面に人の足形が残されているためである．

「昔，富士山から流下した溶岩が三島を飲み込もうとした時，町を守るため木花開耶姫が身を挺して足で溶岩流を押し留めた際に付いた足形」と言い伝えられている．足形は約 28 cm あり，姫の身長は 170 cm 以上あった事になる．

約 1 万年前，富士山五合目以上にあったと推定される噴火口から流出した三島溶岩流は，約 30 km 流下して当地に到達した．溶岩の表層は急冷するため，溶岩チューブ内部を流れ前進した．溶岩流が停止すると，内部の溶岩はゆっくり冷却し，ガス成分は気泡となり上部に移動し，急冷した表層部との境目に蓄積する．

地理院地図（電子国土Web）

木花開耶姫の足形は，昔，境内整備で表層溶岩を切り取った際，気泡が溜まって出来た空所の断面が「足形」に似ていたため，伝説が作られたものと思われる．

当社は江戸時代から明治 22 年に御殿線が開業するまでは，富士登山三島口の起点であり，登山者は境内の神池（湧水）で身を清め山頂を目指した．

（増島 淳）